

職人通信

国民生活の安全と安心！ 支えるのは専門工事業

東京建設躯体工業協同組合(青木繁夫理事長)が開催している「次世代経営研修会」「次世代レベルアップ経営研修会」の合同修了式が3月21日に行われ、岸田敏弘副理事長から修了生に修了証が授与された。次世代経営研修会は2014年度から開催しているもので今年度が3期目になる。年6回開催し、今年度は2人が修了証を受け取った。また、同研修会修了者を対象とする第2期次世代レベルアップ経営研修会も6回開催され、5人が修了した。次世代レベルアップ経営研修会の修了生は、滝田善徳氏(新井組)、大杉冬嗣氏(鈴木組)、安納晃氏、渡辺光一氏(ともに大勝建設)、高橋幸二氏(大崎建設)の5人。また次世代経営研修会の修了生は新井正広氏(新井組)と木村匠氏(関根建設)の2人。修了証授与式後、研修会に参加した感想などを聞いた。

東京躯体が合同修了式

「講習会を振り返って 新井 会社で行っていることプラスアルファしてやっていきたい。あと1年勉強し、会社に返って役立てたいと思う。また、横のつながりができたことも良かった。仕事やプライベートなことなどいろいろなところ

た。今後もうつした研修会があれば参加したい。勉強したことを社内で生かし、教えられるようにしたい。

滝田 2年前から役員になった。経営について分りやすく解説してもらったので、それを生かして会社がより良い数字になるように努力していきたい。いろいろな観点から勉強できて良かった。

高橋 管理や会計のことをしているので、復習的な意味合いが強かったが、当たり前と思っていることを確認できたこと、こういう考え方もあるだといつことに気づかされた。また、現場の忙しい中、参加している皆さんの真剣な姿に触発された。

—スケジュール調整が大変だったのでは

木村 前もって予定が分かっていたので、あわせるように優先順位を付けてスケジュールを組みました。周りが協力してくれたので、出席できました。

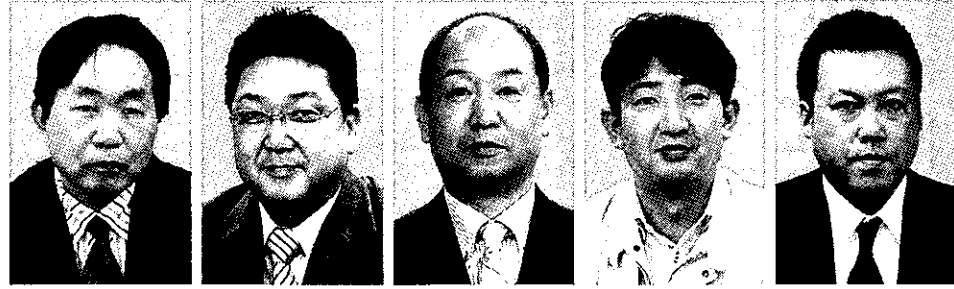
大杉 安全衛生協議会もあつたが、会社に参加できる環境をつくってもらえた。また、予定が重なるので、途中参加や退席もあつたが、そうした形でも参加するのが良いのではないかと。

渡辺 年間スケジュールが決まっているので、前もって仕事をあけるようにした。

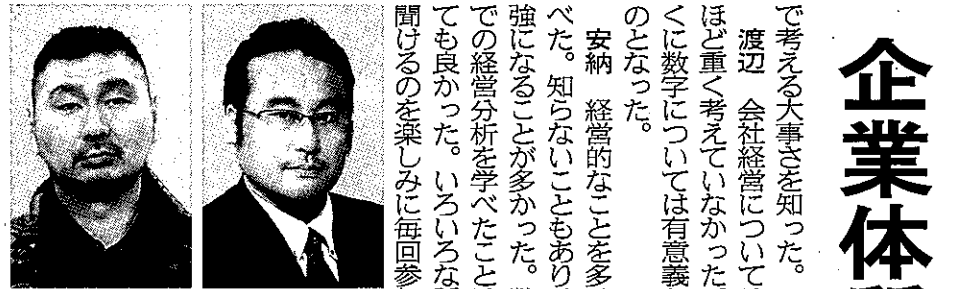
滝田 仕事が忙しくて、来られなくて、3年目になった。1年目の時は前もって日程を決めていたが仕事を優先した。2年目はすべて出席、今回は1回欠席した。年間スケジュールが決

次世代レベルアップ経営研修会

次世代経営研修会



高橋氏 渡辺氏 安納氏 大杉氏 滝田氏



木村氏 新井氏

企業体質強化へ「数字」知る

木村 前もって予定が分かっていたので、あわせるように優先順位を付けてスケジュールを組みました。周りが協力してくれたので、出席できました。

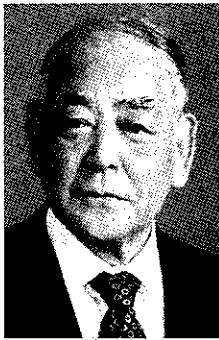
大杉 安全衛生協議会もあつたが、会社に参加できる環境をつくってもらえた。また、予定が重なるので、途中参加や退席もあつたが、そうした形でも参加するのが良いのではないかと。

渡辺 年間スケジュールが決まっているので、前もって仕事をあけるようにした。

滝田 仕事が忙しくて、来られなくて、3年目になった。1年目の時は前もって日程を決めていたが仕事を優先した。2年目はすべて出席、今回は1回欠席した。年間スケジュールが決

情熱・熱意・執念

専門工事業への提言 37



建設経営コンサルタント
一般社団法人 日本建設躯体工事業
団体連合会・東京建設躯体工業
協同組合事務局長
天本武

「(1)としては大きな夢を持って。あなたのこの初夢はどんなものだったのか。悪い夢だからといって悲観することはない。自分がそれを信じなければ現実になることはないからである。それよりも重要なのは、わたしたちが現実の世界でどんな夢を持つべきかということだ。将来どうなりたい、こうしたいといった願いや理想を持つということだが、その夢がわたしたちの能力を開発することにも、将来を大きく決めることになる。夢があれば将来に希望が持て、いろいろなことも耐えられるし、勇気も湧いてきて、そして頑張ろうという気持ちにもなり、能力も発揮されることになる。

しかし、(2)とした厳しい時代には夢はなかなか持てないという人がいる。まだ、持っても実現できないので無駄だという人もいるが、そうではない。厳しい時代だからこそ、また、なかなか実現できないからこそ夢は持たねばならないのである。中国の諺(ことわざ)には「夢見る者に幸運は訪れる」とある。大きな夢を持つ。そして、実現に一步踏み出す。

建設業の特徴の1つに6S(整理・整頓・清潔・清掃・しつけ・作法)などの習慣がある。小生も、禅画を約50年にわたり描いている関係で、全国の禅寺を回っているが、6Sのお寺で

たどろろ汚れていなくきれいで隔々々でも掃除をする。これは心をきれいにするために、臨済宗龍源寺住職の松原哲明氏は「掃除は禅そのものである。それは心を浄化していく作業が禅の修

も、庭の手入れが行き届いているのは感心させられる。また、禅宗のお寺はどこの掃除が行き届いている。禅宗では掃除は座禅・托鉢と並ぶ大切な修行の1つとされているのである。

そのため修行道場では、毎日午前中、行だからだ」と言っている。

人間はもとよりきれいな心「清浄心」を持っていてと言われている。実際に心がきれいかどうかを確認するには、過程が禪の修行の坐禅であり掃除なのである。それだけに掃除の作法は厳しく、庭掃除も、ただ表面を掃くだけではない。小石と小石の間に入り込んで落ち葉や枯れ枝なども手で一つひとつより分けながら取り、より分けた土や石は地面の窪みなどに埋め戻すのである。手抜きは許されない。手を抜くと必ず結果として良くないことに結びつくからだ。不潔になったり、美観が損なわれたりといつこともあるが、それ以上に心がきれいに磨かれなければならない。

中小専門工事業者が今年度、適正規模の適正利潤を確保するには、相当な苦勞が予想されているが、もがくあまり仕事の手抜きや安全管理などに不備が生じないように心掛けることは大切なことである。

ある企業の社長の休日は元日のみで2日から仕事を始める。それも、会社

の始業は8時30分だが、誰よりも早一番乗りで6時50分には出社している。出社すると、社長室の壁に掲げられている「情熱・熱意・執念」と大きく書いた額に向かかって手を合わせて手拍子を行う。きょうも一日、最大の情熱・熱意・執念で仕事に取り組みたいと誓うのだ。その社長は、決して「神頼み」はしない。自分を救うのは自分しかないから、他力本願では事業はうまくいかないことを知っているからだ。

ビジネスを成功させるのはあくまで自力である。そのためには自分の力を最大に引き出すことだ。それが情熱・熱意・執念であり、人間の能力差は50倍意識の差は100倍と言われている。

また、社員に対しても能力より意識をどう持つかがこのほか重視する。貴社の経営者・社員の「情熱・熱意・執念」はどうかだろうか。現在の建設環境を会社全員で「情熱・熱意・執念」で打破しよう。

本稿で建設業の情報と企業経営改善策を、中小・専門工事業の活性化の糧になればと、示唆しているが、建設投資がピーク時の80兆円超から現在約43兆円に減少している。この減少分を補うのは、大手建設業ではなく専門工事業者のノウハウと言え。資源・環境・清掃・防災など創意工夫で生産性を向上させて、企業を活性化させよう。